

---

**「脱人格化」は透析施設の看護師バーンアウトにおいて最も強い負のインパクトを有する**

---

医療法人衆和会 長崎腎病院

○岩井由紀子、丸山祐子、澤瀬健次、原田孝司、船越 哲

**【はじめに】**

看護師においては、キャリアを重ねながらライフイベントに対応することが要求されバーンアウトの抑制アプローチがなされている。バーンアウトにおける「脱人格化」は、ヒューマンサービスにおいて受け手に対するネガティブな感情や行動傾向を意味し、注意を要する症状である。

**【目的】**

透析施設看護職のバーンアウト状況に与える因子を解析する。

**【方法】**

当院の看護師 71 名を対象に、MBI 測定尺度を用いてバーンアウト状況を評価し職業キャリア成熟尺度との関連性を調査した。

**【結果】**

職業的成熟度における「脱人格化」は、関心性・自律性・計画性すべての尺度で負の相関を認めた。また、職業成熟度が高くなるほど、また自律性が高い看護師ほど、バーンアウトにおける「脱人格化」が有意に低かった。

**【考察】**

透析看護職は継続的な学習やよい人間関係を構築する事が求められ、バーンアウトに陥りやすいとされている。職業成熟度を高めるとともに、「脱人格化」を含めたバーンアウト要因を意識する必要がある。